

# ASBJ Newsletter



## 目次

1. 企業会計基準等の開発（2010年8月1日～2010年9月30日）
2. 企業会計基準委員会の概要（第207回～第209回）
3. IASB及びFASFに対するASBJのコメント（2010年8月1日～2010年9月30日）
4. 第10回基準諮問会議を開催
5. ASBJプロジェクト計画表の更新
6. FASF単体財務諸表に関する検討会議を設置
7. FASFとの第9回定期協議を開催
8. Tommaso Padoa-Schioppa IFRS財団議長来日、市場関係者を訪問
9. IASBと第12回共同会議を開催
10. 第10回各国基準設定主体会議（NSS会議）に加藤副委員長が参加
11. 世界基準設定主体会議（WSS会議）に加藤副委員長が参加
12. 第10回日中韓三ヶ国会議を開催
13. 第2回アジア・オセアニア基準設定主体グループ（AOSSG）会議を東京で開催
14. ASBJオープン・セミナー【第5回～第6回】を開催
15. プロジェクト進捗（2010年9月30日現在）。
16. お知らせ

《ご注意》本文中のハイパーリンク先につきましては、一部、財務会計基準機構の会員限定サイトとなっており、一般の皆様にはご覧頂けないこともございます。あらかじめご了承ください。

## 1. 企業会計基準等の開発（2010年8月1日～2010年9月30日）

1) 【DP】[「金融商品会計基準（金融資産の分類及び測定）の見直しに関する検討状況の整理」](#)の公表（2010年8月16日）（コメントの募集は2010年11月30日までとなっています。）

2) 【ED】[企業会計基準公開草案第44号（企業会計基準第22号の改正案）「連結財務諸表に関する会計基準（案）」](#)、[企業会計基準適用指針公開草案第39号（企業会計基準適用指針第15号の改正案）「一定の特別目的会社に係る開示に関する適用指針（案）」](#)、[企業会計基準適用指針公開草案第40号（企業会計基準適用指針第22号の改正案）「連結財務諸表における子会社及び関連会社の範囲の決定に関する適用指針（案）」](#)及び[「実務対応報告公開草案第35号（実務対応報告第20号の改正案）「投資事業組合に対する支配力基準及び影響力基準の適用に関する実務上の取扱い（案）」](#)の公表（2010年9月3日）（コメント募集は2010年11月4日までとなっています。）

### 【凡例】

DP：論点整理・検討状況の整理

ED：公開草案

Final：会計基準/適用指針等（最終）

## 2. 企業会計基準委員会の概要（第207回～第209回）

### 1) [第207回（2010年8月5日開催）](#)

a. 金融商品会計基準（金融資産の分類及び測定）の見直しに関する検討状況の整理（案）【公表議決】

b. 特別目的会社専門委員会における検討状況

c. 企業結合専門委員会における検討状況

d. 無形資産に関する検討

a. 検討状況の整理の公表議決が行われました。

企業会計基準委員会は、その後、2010年8月16日に公表し、11月30日までの約3ヵ月間、検討状況の整理に対するコメントを募集しています。

b. 特別目的会社の取扱いに関する短期的な対応の検討が行われました。

「特別目的会社の取扱い」については、資産の譲渡者のみをその対象とすることを明示しています。また、これに関連し、連結の範囲に含められることとなった特別目的会社については、連結貸借対照表上、ノンリコース債務を区分表示し、併せてノンリコース債務に対応する資産の注記を求めることが提案されました。

c. のれんの非償却を含む企業結合のステップ2に関する検討が行われました。

のれんの測定については、IFRSと同様、購入のれん方式以外に全部のれん方式によることもできることとされています。ただし、IFRSが結合単位での選択適用を認めているのに対して、現在検討されている案では、会計方針として選択することを認めている点で異なります。

d. 無形資産の会計基準を作成するに際して影響のある実務対応報告第18号「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」の改正検討が行われました。

実務対応報告第18号では、IFRSに準拠して作成された在外子会社の財務諸表を連結決算上利用する場合に、日本基準に適合するよう開発費に該当する支出を資産に計上している場合には、連結決算手続上、当該金額を支出時の費用とするよう修正することが求められています。今回の検討が進

んだ場合、この差異は消滅しますので、併せて当該実務対応報告の改正検討を行ったものです。

## 2) 第208回(2010年8月26日開催)

- a. 基準諮問会議からの審議テーマの提言
- b. 企業会計基準公開草案「連結財務諸表に関する会計基準(案)」【公表議決】
- c. 企業結合専門委員会における検討状況
- d. 退職給付専門委員会における検討状況
- e. 金融商品専門委員会における検討状況(FASB公開草案「金融商品」対応)
- f. 財務諸表表示専門委員会における検討状況(IASB公開草案対応)

a. 2010年8月2日に開催された基準諮問会議を受け、委員会での審議テーマに係る提言書がまとめられ、今後の委員会での検討が提言されました。

提言は2件あり、内閣の「新成長戦略」でも取り上げられている四半期報告の大幅な簡素化(四半期会計基準等の改正)と、国際的な会計基準にあり、我が国会計基準にない「後発事象」に関する会計基準の策定です。

いずれも、今後、企業会計基準委員会で検討が開始されることになりました。

b. 特別目的会社の取扱いに関する短期的な対応として、連結会計基準の公開草案の議決が行われました。

第207回の委員会では、連結の範囲に含まれることとなった特別目的会社について、連結貸借対照表上、ノンリコース債務を区分表示することが提案されていましたが、公開草案では、注記に留めることになりました。

企業会計基準委員会では、2010年9月3日に公表し、11月4日まで公開草案に対するコメントを募集しています。

c. のれんの減損の取扱いについて、のれんの

配分単位と、評価方法についての検討が行われました。

のれんの配分単位について、論点整理及びその後の検討では、IFRSと同様に、資金生成単位にのれんの帳簿価額を配分する方法を原則とする方向で検討されていましたが、現行ののれんを含むより大きな単位による取扱いであっても実務的にはIFRSの取扱いと変わらないのではないかとの考えから、現行の配分単位の考えを維持する方向で検討されています。

また、評価方法については、のれんの償却を行わないこととすることに伴って、金額的に重要なのれんについては、IFRSと同様、1段階方式により減損損失の認識及び測定を行うことが検討されています。

d. 公開草案に様々なコメントが寄せられましたが、ステップ1を予定通り進めるか否かについての検討が行われました。

e.~f. 公開草案に対する対応についての検討が行われました。

## 3) 第209回(2010年9月16日開催)

- a. プロジェクト計画表の改正
- b. 退職給付専門委員会における検討状況
- c. 四半期会計基準の改正に関する検討
- d. 後発事象に関する会計基準の検討
- e. 金融商品専門委員会における検討状況(FASB公開草案「金融商品」対応)
- f. 収益認識専門委員会における検討状況(IASB公開草案対応)
- g. 財務諸表表示専門委員会における検討状況(IASB公開草案対応)

a. 会計基準の開発スケジュールを示すプロジェクト計画表の更新が検討されました。

今回の見直しでは、「四半期財務諸表に関する会計基準の改正」と「後発事象に関する会計基準等の策定」が新たに加えられています。

b. 退職給付に関するプロジェクトの今後の進め方についての検討が行われました。

ステップ1の進め方については、様々な意見がありますが、次回(10月7日)の委員会で、その対応についての意思確認が行われることとされました。

c. 諸外国における四半期報告制度の現状説明が行われた後、今後の進め方が検討されました。

年内に公開草案を公表し、2011年3月には最終基準化を目指すこととされています。

d. 後発事象に関する会計基準の策定について、今後、検討を要すると考えられている項目の洗い出しと論点の説明が行われました。

年内の公開草案公表、2011年3月中の最終基準化を目指すことが示されています。

e.~g. 公開草案に対する対応についての検討が行われました。

### 3. IASB 及び FASB に対する ASBJ のコメント (2010 年 8 月 1 日~2010 年 9 月 30 日)

1) [IASB 公開草案「確定給付制度」に対するコメント](#)を提出 (2010 年 9 月 6 日)

2) [FASB 会計基準更新書案「金融商品に関する会計処理、並びに、デリバティブ金融商品及びヘッジ活動に関する会計処理の改訂」に関するコメント](#)を提出 (2010年9月30日)

3) [IASB 公開草案「その他の包括利益の項目の表示 \(IAS 第 1 号の修正案\)」に対するコメント](#)を提出 (2010 年 9 月 30 日)

### 4. 第 10 回基準諮問会議を開催

2010 年 8 月 2 日、[第 10 回基準諮問会議](#)

が開催されました。会議では、企業会計基準委員会 (ASBJ) の最近の活動状況についての報告の後、日印 IFRS ダイアログ、連結先行について意見交換が行われました。その後、6月に公表した ASBJ 中期運営方針についての説明が行われ、広報活動、上場会社以外の会計基準、国際財務報告基準 (IFRS) エンドースメントプロセスへの協力等について意見交換が行われました。

続いて、本年度も昨年度に引き続きアンケート調査を行うため、実施要領について説明が行われました。

最後に金融庁より、「四半期財務諸表に関する会計基準の改正」及び「後発事象に関する会計基準等の策定」について検討の依頼があり、基準諮問会議で審議した結果、基準諮問会議として ASBJ に検討を提言することとなりました。

### 5. [ASBJ プロジェクト計画表の更新](#)

ASBJ では、2011 年末までのプロジェクトの進行スケジュールを記載したプロジェクト計画表を更新し、2010 年 9 月 17 日に公表しています。

今回の更新は、主として、国際会計基準審議会 (IASB) と米国財務会計基準審議会 (FASB) が、本年 6 月に公表した「会計基準のコンバージェンス及び一組の高品質なグローバルな会計基準のコミットメントに関する進捗報告」及びそれに基づくワーク・プランが更新されたこと、及び基準諮問会議から「四半期財務諸表に関する会計基準の改正」、「後発事象に関する会計基準等の策定」の提言を受け、ASBJ として基準改正及び開発に着手することとしたことを踏まえ、それらのプロジェクトのスケジュールを反映したものとなっています。

## 6. FASF 単体財務諸表に関する検討会議を設置

我が国では会計基準のコンバージェンスを進めていますが、単体財務諸表について、連結先行のアプローチをどのように進めていくかが議論となる中、本年 8 月に開催された企業会計審議会において、財務会計基準機構（FASF）が、ASBJ の独立性を確保しつつ、基準設定機能の強化及びそのための産業界を含む各ステークホルダーによるバックアップ強化の方策を検討することとなりました。

そこで、単体財務諸表のコンバージェンスを当面どのように取り扱うべきかについて、ハイレベルな意見を聴取するための検討会議（単体財務諸表に関する検討会議）を FASF 内に設置することと致しました。

本検討会議では、個々の会計基準毎に、関係者の意見を聴取検討の上、対応の方向性についての考え方を集約致します。ASBJ は、本検討会議の意見を十分斟酌し最終判断を行うこととなります。

単体財務諸表に関する検討会議名簿（順不同）  
（委員）

議長 萩原 敏孝	公益財団法人財務会計基準機構 理事長
副議長 増田 宏一	日本公認会計士協会 相談役
武井 優	東京電力株式会社 取締役副社長
村岡 富美雄	株式会社東芝 取締役代表執行役副社長
谷口 進一	新日本製鐵株式会社 代表取締役副社長
中村 豊明	株式会社日立製作所

	代表執行役執行役専務
野崎 邦夫	住友化学株式会社 常務執行役員
岡田 譲治	三井物産株式会社 常務執行役員 CFO 補佐兼 経理部長
國部 毅	株式会社三井住友銀行 取締役専務執行役員
久保田 政一	社団法人日本経済団体連合会 専務理事
山崎 彰三	日本公認会計士協会 会長
岩熊 博之	株式会社東京証券取引所グループ 取締役兼代表執行役専務
萩原 清人	社団法人日本証券アナリスト協会 専務理事

（オブザーバー）

金融庁  
法務省  
経済産業省  
西川 郁生 企業会計基準委員会委員長

## 7. FASB との第 9 回定期協議を開催

ASBJ と FASB の代表者は、2010 年 8 月 12 日及び 13 日にわたり、東京で第 9 回定期協議を開催いたしました。この会合は、ASBJ の西川委員長、FASB のハーズ議長主導の下、会計基準のグローバル・コンバージェンスを目指した相互の対話を促進するために ASBJ と FASB が定期的に行っているものです。

FASB は 2010 年 6 月に、「コンバージェンス作業に関する IASB と FASB の共同声明」を公表し、米国会計基準と IFRS の改善と共通化のための作業計画の修正を発表しました。ASBJ は、日本基準と IFRS とのコンバージェンス・プロジェクトを、FASB

とIASBが共同で行っているプロジェクトの進捗状況を踏まえて進めており、FASBとIASBの高品質な1組のグローバルな会計基準を目指す取組みを支持しています。

以上のような最近における状況を踏まえ、本会議においては、両者は、お互いのコンバージェンス・プロジェクトの最新状況を確認し、以下の個別プロジェクトについての意見交換を行いました。

- ・ 金融商品 (FASBが2010年5月に公表した公開草案について)
- ・ 収益認識 (FASBとIASBが2010年6月に公表した公開草案について)
- ・ リース (FASBとIASBにより近く公表される公開草案における会計モデルについて)

このような継続的な議論により相互理解を深めることを通じて、ASBJ及びFASBにおけるこれからの審議や、改善を図るべき重要な項目に関してIASBとともに進めている今後の高品質な会計基準の開発に寄与するものと考えています。両者は、引き続き、直面する課題や現在の懸案事項について意見交換していくことといたしました。

## 8. Tommaso Padoa-Schioppa IFRS 財団議長来日、市場関係者を訪問

2010年7月に名称変更がされた国際財務報告基準財団 (IFRS 財団) 評議員会の新しい議長に就任された、Tommaso Padoa-Schioppa氏が8月24日及び25日の日程でIFRS財団のCOO/Tom Seidenstein氏と共に来日されました。

同議長は1940年イタリア生まれの70歳。イタリア中央銀行副総裁、バーゼル委員会委員長、決済システムに関するG10委員会委員長等を歴任されたのち、2005年に初代ボルカー議長の後を継いで

IASC財団 (IFRS財団の旧称) 議長に就任され、2006年にイタリア経済財務大臣就任の為、同財団議長を辞任しており今回は4年振りのIFRS財団評議員会議長復帰となります。



今回は、IFRS財団評議員会議長就任後の最初の海外訪問国としての来日であり、日本訪問後は引き続き韓国、中国を歴訪されIFRS財団として如何に日本、及びアジアを重視しているかの証左となるものです。

短い滞在期間の中で議長は、金融庁訪問 (自見金融担当大臣、大塚金融担当副大臣、三國谷金融庁長官と面談)、経団連訪問 (米倉会長と面談)、日銀訪問 (白川総裁と面談)、東証訪問 (斎藤社長と面談)、財務会計基準機構訪問 (萩原理事長と面談)、IFRS対応会議メンバーとの朝食会、日経インタビュー取材とハードな日程をこなされました。

一連の面談及び会合で議長は、IASBがグローバルな基準設定機関として卓越していること、IASBやIFRS財団への日本の関係者の貢献が際立って大きいこと、2010年から2012年がIFRSのAdoptionの方向性が決まる重要な期間であることを繰り返し述べられ、2012年に向けての日本の決断に強い期待感を示されました。一方、日本の関係者からは、IFRSへの意

見発信力を高めるためにも IASB のサテライトオフィスを東京に招致したいとの強い希望が伝えられ、又、IASB と FASB の協議の動向、IFRS とプルデンシャル規制との関係等の質問が寄せられています。

## 9. IASB と第 12 回定期協議を開催

ASBJ と IASB は、日本における IFRS とのコンバージェンスへの取り組みを促進し、IFRS 導入についての準備状況を検討するため、第 12 回目の定期協議が西川委員長、Tweedie 議長主導の下、9 月 9 日及び 10 日の 2 日にわたり、ロンドンで行われました。

今回の協議では、両者はお互いのコンバージェンス・プロジェクトの最新状況を確認し、議論の多い次のテーマに関し深度を高めた協議を行いました。

- ・ 金融商品（金融負債の分類及び測定、減損の測定、ヘッジ会計）
- ・ 連結
- ・ リース
- ・ 収益認識

金融商品のセッションでは、昨年 11 月公表の IASB の公開草案「金融商品：償却原価及び減損」で提案されている減損の新たなモデル（予想損失モデル）について、IASB における直近の議論の状況を踏まえ、前回に引き続き議論を行いました。また、IASB が 2010 年 5 月に公表した公開草案「金融負債に関する公正価値オプション」で提案している公正価値オプションを金融負債に適用した場合における自己の信用リスクの取扱いについて、ASBJ が提出したコメントに基づき、議論を行いました。さらに、IASB で活発に審議が行われている包括的なヘッジ会計の改善に関して、現在までの暫定決定を踏まえ、ヘッジ会計の手法等に

ついて議論を行いました。

連結のセッションでは、2008 年 12 月に公表された公開草案第 10 号「連結財務諸表」に関して、IASB における現在までの審議状況を踏まえ、議決権が過半に満たない場合における支配の考え方を中心に議論を行いました。また、支配の判定に際しての関連当事者の考慮や潜在的議決権の取扱いに関わる論点についても議論を行いました。

リースのセッションでは、IASB が FASB と共同で 2010 年 8 月に公表した公開草案「リース」で提案されている会計処理について、特に貸手の会計処理に焦点を当て、複数の会計モデルを使い分ける提案や、別途提案されている新たな収益認識モデルとの整合性などについて議論を行いました。

収益認識のセッションでは、IASB が FASB と共同で 2010 年 6 月に公表した公開草案「顧客との契約から生じる収益」で提案されている新たな収益認識モデルについて、契約における履行義務を識別する方法や返品権及び製品保証の会計上の取扱いについて議論を行いました。

その他前回の会議と同様、今回の会議でも、IFRS の任意適用に際して日本で生じている様々な解釈上および実務上の懸案事項についても意見交換を行っています。

## 10. 第 10 回各国基準設定主体会議 (NSS 会議) に加藤副委員長が参加

2010 年 9 月 18 日及び 19 日の 2 日間にわたり、ローマにて第 10 回各国会計基準設定主体会議 (NSS 会議) が開催されました。イタリア会計基準委員会主催のもと、英国、米国、カナダ、フランス、ドイツ、オーストラリア、韓国、インド、マレーシア、南アフリカ等計 25 ヶ国の会計基準設定主体と米国 SEC や欧州財務報告諮問グループ

(EFRAG)等の関係機関から総勢66名の参加がありました。ASBJからは、加藤副委員長、小賀坂主席研究員、吉岡研究員の3名が参加しています。

本会議は、各国の基準設定主体が取り組んでいる研究プロジェクトを議論し、IASBの基準開発へのインプットやサポートを行うことを目的とするものであり、今回は以下のテーマについて議論が行われました。

	議題	担当
<b>9月18日(土)</b>		
1	コンバージェンスとグローバルな会計基準	米
2	財務報告における国際的な開発状況とIASBの作業計画	英
3	XBRL	シンガポール
4	IAS第41号：農業	マレーシア
5	法人所得税	英、独、EFRAG
<b>9月19日(日)</b>		
6	IASB/FASB 概念フレームワーク	IASB/FASB
7	概念フレームワークへの貢献度：会計単位	英
8	測定：IPSASBのCP草案	IPSASB
9	測定のフレームワークに向けて	カナダ
10	測定のフレームワークに向けて-代替的見解	フランス
11	共通支配下における企業結合	イタリア
12	影響分析：アップデート	英、EFRAG
13	IFRS第2号の調査：アップデート	フランス

会議では、まず米国SECのKroeker主任会計士より、今年2月に公表したSECの作業計画についての説明がなされ、IFRSを組み込んだ財務報告システムへの移行に関する検討を続けていることが説明されました。NSSのIFRS導入の経験などを求める問いかけに対し、各NSSから様々な意見が述べられました。

次の議題2では、最近公表されている米国FASBからの金融商品に関する公開草案や、IASBの収益認識、リース、保険に関する公開草案、さらには減損やヘッジに関する

審議状況などを議論し、参加者からは非常に活発な意見が述べられました。その中でASBJからは、上記論点について第2回アジア・オセアニア基準設定主体グループ会議(AOSSG)会議におけるワーキンググループで検討しており、AOSSGとしてできる限り意見を集め、それぞれについてコメントレターを送付する予定であることを紹介しました。

前回に引き続き、概念フレームワークに関する項目が多くとりあげられましたが、その中でも議題7は、IASBとFASBからNSSに対して協力が求められ、開始することとなったプロジェクトであり、ASBJも参加メンバーになっています。

次回は2011年春にニューヨークで開催が予定されています。

## 11. 世界基準設定主体会議(WSS会議)に加藤副委員長が参加

2010年9月20日(月)及び21日(火)の2日にわたり、ロンドンで世界基準設定主体会議(WSS会議)が開催されました。WSS会議は、IASBが世界各国の会計基準設定主体との意見交換のため毎年秋に開催しています。

今回のWSS会議は、山田辰己IASB理事が議事進行を務め、約50カ国から100名近くが参加しています。日本からはASBJの加藤副委員長、吉岡研究員が出席しました。IFRS導入上の問題に関する報告、IASBのプロジェクト計画や最近の問題意識に関する説明、プロジェクトのアップデート、小グループに分かれてのディスカッションが行われました。議題は以下のとおりです。

### 【9月20日】

➤ Tweedie IASB議長のスピーチ



- IFRS導入上の問題
- リース
  - ◇ プロジェクトアップデート
  - ◇ 小グループに分かれての議論
  - ◇ 各グループからのフィードバック
- 基調講演（金融庁古澤企業開示課長）
- 教育セッション
  - ◇ 排出量取引
  - ◇ 採掘活動
  - ◇ XBRL IFRSタクソノミー

【9月21日】

- IASBの計画及び優先事項(2011年以降のアジェンダ)
- IASBへの関与 (Cooper理事)
- IFRS諮問会議アップデート (Cherry議長)
- 個別セッション
  - ◇ 中小企業 (SME) 向けIFRS
  - ◇ その他のプロジェクト (保険契約、財務諸表表示、収益認識、金融商品 (IAS39号の置換え))
- 個別セッション
  - ◇ IFRSテクニカルアップデート及び質疑応答
  - ◇ その他のプロジェクト (公正価値測定、財務諸表表示、収益認識、金融商品 (IAS39号の置換え))
- 導入活動のアップデート
- 発効日及び移行規定

初日の基調講演では、金融庁企業開示課の古澤課長から、金融庁のIFRSに対する取り組み状況やASBJとの協調関係、IFRS財団モニタリング活動について紹介されました。その中で、特に日本で生じている減価償却の解釈の問題などの例も挙げ、IFRSについての関係者の理解の向上が不可欠であり、教育やトレーニングの重要性などを強調していました。

## 12. 第10回日中韓三ヶ国会議を開催

2010年9月28日にアジア・オセアニア基準設定主体グループ(AOSSG)会議に先駆けて、第10回日中韓3カ国会計基準設定主体会議(3カ国会議)が東京で開催されました。本会議はアジアの近隣3カ国の会計基準設定主体間で内外の様々な問題について認識を共有し、意見交換を行うこと等を目的としており、2002年2月に東京でスタートし、今回で10回目となりました。

ASBJからは、西川委員長をはじめ、常勤委員全員と研究員が参加しました。また、日中韓3カ国の会計基準設定主体に加え、オブザーバーとしてIASBから山田辰己理事及びWei-Guo Zhang理事が、マカオ特別行政区からも代表者が参加し、意見交換を行いました。

会議の冒頭に西川委員長から、IFRSに関して、日本では適用に向けての取り組みが進められ、中国ではコンバージェンスが加速され、韓国では来年強制適用を迎えるなど、それぞれ直面する状況は異なるものの、3カ国間で共通する論点は多くあり、その知見を共有することは引き続き意義があると考えているとのコメントがありました。

意見交換の中では、IFRSの導入時における中小企業の会計基準のあり方など、3ヶ国に共通する論点に関し、活発な情報交換や議論が行われました。

## 13. [第2回アジア・オセアニア基準設定主体グループ\(AOSSG\)会議を東京で開催](#)

2010年9月29日及び30日の2日間にわたり、東京の秋葉原コンベンションホールで、第2回AOSSG会議が開催されました。

会議はASBJによって主催され、域内

の24ヶ国（地域）の会計基準設定主体から約90名が参加しました。また、IASBからTweedie議長や山田理事ほかの理事及び国際ディレクター、並びにIFRS財団から島崎トラスティーが参加しました。ASBJからは西川委員長をはじめとする委員及びスタッフが参加しました。

会議の冒頭、東金融担当副大臣から、国際基準としてのIFRSの発展に貢献するため、アジア・オセアニア地域の連携を強め、IASBへの意見発信力を高めることが重要である旨、また、Tweedie議長から、AOSSGの継続的な努力への敬意とともに、アジア・オセアニア地域の経済発展の中で、この地域からのインプットがより重要になっている旨の基調講演が行われました。



会議の中では、ASBJ西川委員長が向う1年間のAOSSGの議長に就任すること、第3回会議の開催国がオーストラリアに決定すること及び会議運営の継続性を図るためのアドバイザリーコミッティー新設などを内容とする覚書（MoU）の改定が採択されました。また、AOSSGの認知度を高めるため、ウェブサイトを立ち上げることも決定されました。

テクニカルな論点に関連しては、IASBにおける最近の基準開発の動向についての、IASB理事からの説明に続いて、金融商品、保険、イスラム金融、公正価値測

定、財務諸表表示、リース、収益認識、連結及び排出量取引の9つのワーキンググループからの報告とともに活発な議論が行われました。このうち、ASBJは、収益認識及び排出量取引のワーキンググループにおいて、共同リード国の役目を務めました。

#### 14. ASBJオープンセミナー【第5回～第6回】を開催

ASBJ/FASFでは、国際的な会計の動きを迅速にフォローできるASBJならではの最新情報の提供を行いIFRS導入に向けての環境整備に貢献すること、及びFASF会員へのサービス向上を目的として、本年度よりASBJオープン・オープンセミナー：「IFRSの動向と我が国への導入」を全国主要都市にて開催しています。

今回は7月に東京、大阪、名古屋で開催した「IFRSの今を説く」の内容を、福岡（8月23日）、札幌（8月25日）の両都市で開催いたしました。



15. プロジェクト進捗（2010年9月30日現在）

	2010 Q4	2011 Q1	2011 Q2	2011 Q3	2011 Q4
<b>既存の差異に関連するプロジェクト項目</b>					
企業結合（ステップ2）	ED		Final		
無形資産	ED		Final		
<b>IASB/FASBのMoUに関連するプロジェクト項目</b>					
1 連結の範囲			ED		Final
2 財務諸表の表示 （フェーズB関連） （非継続事業）				DP	
		ED		Final	
3 収益認識	DP			ED	
4 負債と資本の区分					DP
5 金融商品 （金融資産の分類と測定）				ED	
（金融負債の分類と測定）	DP 又は DP2			ED	
（減損）				ED	
（ヘッジ会計）				ED	
6 公正価値測定・開示			Final		
7 退職給付 （ステップ1）	Final				
（ステップ2）			DP		ED
8 リース	DP			ED	
9 認識の中止	DP			ED	
<b>IASB/FASBのMoU以外のIASBでの検討に関連するプロジェクト項目</b>					
引当金			DP2		ED
排出権					
保険					
<b>IASB/FASBの検討項目以外の項目</b>					
特別目的会社	Final				
四半期	ED	Final			
後発事象	ED	Final			

\*：既存の差異等に関する改正

[適用]

- DP 論点整理
- DP2 検討状況の整理（会計基準等の方向性を示すことを目的に公開草案の前に文案に近い形で公表するもの）
- ED 公開草案
- Final 会計基準/適用指針（最終版）

斜体文字は終了したイベントを表しています。

## 16. お知らせ

### 1) 刊行物のご案内

機関誌「季刊 会計基準」第 30 号 (2010 年 9 月 15 日刊行)

#### 【主な内容】

- ✓ 特集 1：“日印ダイアログの発足”
  - 日印ダイアログの発足に寄せて…島崎憲明 IFRS 対応会議国際対応委員会委員長 他
- ✓ 特集 2：座談会「会計基準の将来展望を語る (ASBJ の中期運営方針を踏まえて) 他
- ✓ Accounting Square：“IFRS の円滑な導入に向けた課題と経済界の取組み”…米倉弘昌 社団法人日本経済団体連合会会長
- ✓ CFO Letter：“銀行業と会計基準”…宮田孝一 株式会社三井住友フィナンシャルグループ 取締役
- ✓ Chairman’s Voice：“連結先行の進め方”…西川郁生 ASBJ 委員長
- ✓ 特別企画：ASBJ オープン・セミナー「IFRS の今を説く」 セミナー・レポート 他

※ご購入は[こちら](#)。

※第 30 号より、FASF 会員の皆様には、季刊会計基準に掲載される記事が[ホームページ \(会員専用サイト\) よりご覧になることができます](#)。どうぞご利用ください。

### 2) ASBJ オープン・セミナー：IFRS の最新動向と我が国への導入 (第 7 回～第 8 回) のご案内

ASBJ では、本年度より IFRS 開発の最新動向や IFRS 導入に向けての我が国の活動状況に関する情報を提供するセミナーを全国各地にて延べ 11 回開催を致しま

す。最近の開催予定は次のとおりです。

- 第 7 回 (東京) :
  - 2010 年 11 月 2 日 (火) 13 時 25 分～16 時 30 分
  - (会場) よみうりホール
  - (主な講師) 島崎憲明住友商事特別顧問・IFRS 財団 Trustee, 西川郁生 ASBJ 委員長 他

※[講演開始及び終了時間が当初ご案内から変更になっていますのでご注意ください](#)。なお、[講演内容に変更はありません](#)。

- 第 8 回 (大阪) :
  - 2010 年 11 月 4 日 (木) 13 時 30 分～17 時 30 分
  - (会場) 大阪銀行協会
  - (主な講師) 島崎憲明住友商事特別顧問・IFRS 財団 Trustee, 新井武広 ASBJ 副委員長 他

お申し込みいただきました皆様のお越しを心からお待ち申し上げております。なお、第 7 回の模様は後日 [ASBJ WEB セミナー \(会員専用サイト\)](#) にも掲載する予定です。

#### “ASBJ Newsletter” (第 17 号)

2010 年 10 月 20 日発行

発行：企業会計基準委員会／

公益財団法人 財務会計基準機構

東京都千代田区内幸町 2-2-2

富国生命ビル 20 階

編集・発行人：下村昌作

制作：広報プロジェクトチーム

禁無断転載

※ご意見・ご要望は下記までお寄せください。

E-mail：[publicity@asb.or.jp](mailto:publicity@asb.or.jp)

Fax：03-5510-2712